

# 中予地方局管内の農業



## 中予地方局産業経済部産業振興課

### 【地域農業育成室】 【産地戦略推進室】

〒790-8502 松山市北持田町132

TEL 089-909-8762、089-909-8763

FAX 089-909-8395

### 【伊予農業指導班】

〒799-3122 伊予市市場127-1

TEL 089-982-0477

FAX 089-983-2313

### 【久万高原農業指導班】

〒791-1202 上浮穴郡久万高原町入野263

TEL 0892-21-0314

FAX 0892-21-2592

## 中予地域の概要

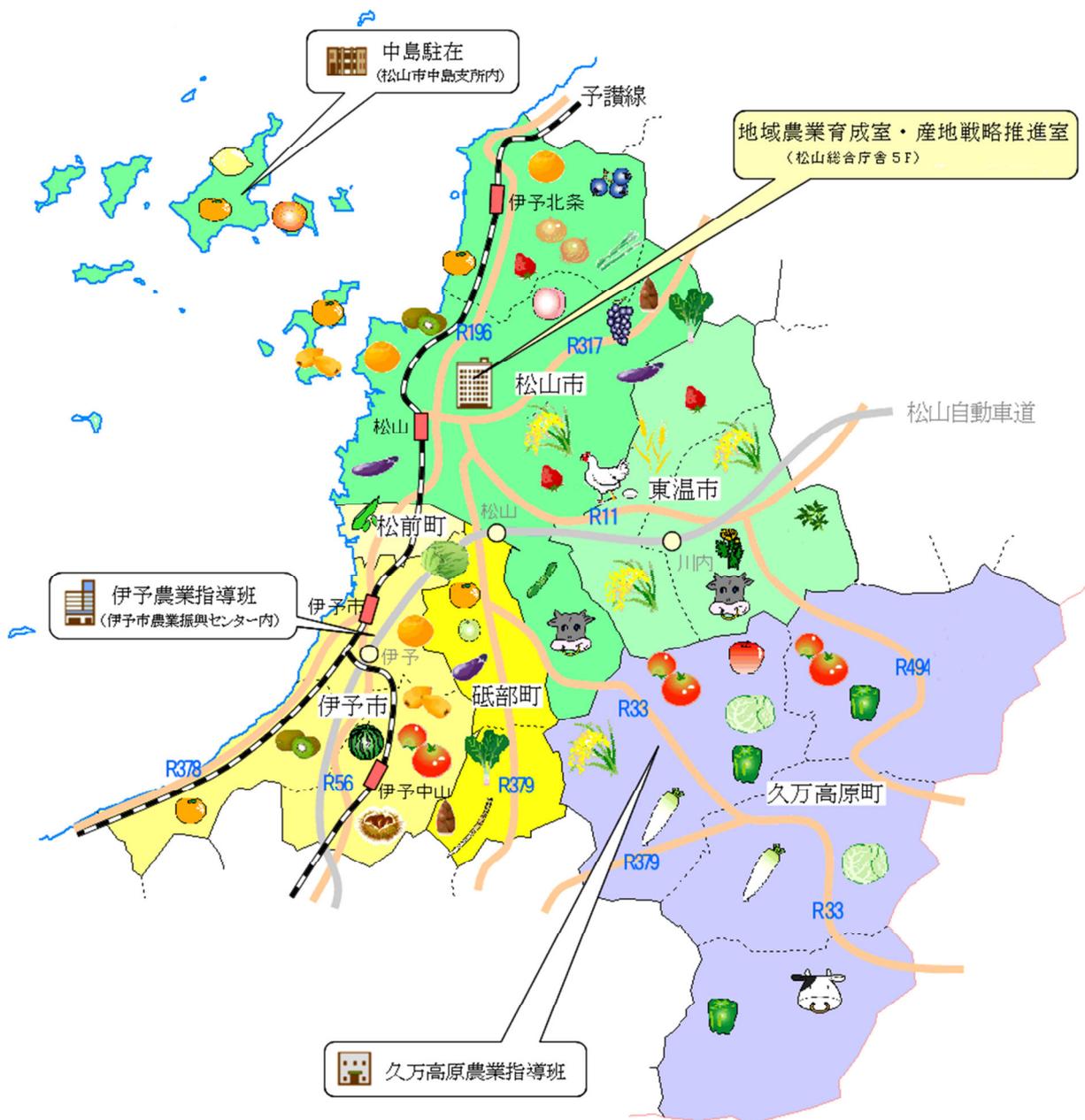
中予地域は、愛媛県の中央に位置し、北西部は瀬戸内海に面し、南東部は西日本最高峰の石鎚山から四国カルストに連なる山間地域となっており、その間の重信川流域一帯に道後平野が広がっています。

気候は、平野部の松山市では、年平均気温 16.5℃、年間降水量 1,315mm と、温暖で雨の少ない瀬戸内式気候ですが、山間部の久万高原町では、年平均気温 12.6℃、年間降水量 1,896mm とやや冷涼で降水量も比較的多く、冬には積雪も見られる準高冷地の気候です。

総面積は約 15 万 ha(県全体の 27%)、総人口は約 65 万人(県全体の 47%)です。耕地面積は 13,457ha で、総農家数は 12,185 戸、うち販売農家数は 7,648 戸(構成比 62.8%)、そのうち専業農家は 3,666 戸(構成比 30%)となっています。

平野部では、米麦を中心に野菜や花き等の都市近郊型農業が、島しょ部や沿岸部では、柑橘の栽培が盛んで、山間部では夏季の冷涼な気候をいかした高原野菜等の栽培が行われています。

なお、地域農業育成室は松山市、東温市、伊予農業指導班は伊予市、伊予郡、久万高原農業指導班は久万高原町、産地戦略推進室は全域を管轄しています。



## 基幹作目とその概要

### ★ 果 樹

瀬戸内特有の温暖な気候をいかし、全国有数のかんきつ産地を形成しています。露地栽培は、宮内伊予柑、うんしゅうみかんが中心ですが、「せとか」「愛媛果試第28号」「カラ」などが特産かんきつとして導入されています。また、温室みかんや中晩柑のハウス栽培は県内有数の産地です。一方、落葉果樹では、キウイフルーツをはじめ、ぶどう、くり等が特産となっています。

#### ●いよかん

「宮内伊予柑」発祥の地である松山市平田町を中心に生産され、栽培面積は951haです。品質銘柄ともに日本一の評価を受けており、「蔵出し」「弥生紅」などの特選品が有名です。



基幹品目の宮内伊予柑

#### ●うんしゅうみかん

島しょ部を中心に448ha栽培され、それぞれの産地の特色をいかして9月下旬から2月にかけて出荷されます。

#### ●温室みかん

伊予市、砥部町を中心に11ha栽培されています。かんきつ類の端境期の6～9月に出荷・販売されています。近年、ハウスの3重被覆など省エネ化が進められています。



収穫前の温室みかん

#### ●せとか

高糖度で食味良好なかんきつで、1月下旬から施設栽培物が、3月には露地栽培物が出荷されています。沿岸部、島しょ部を中心に111ha栽培され、日本一の産地を形成しています。

#### ●愛媛果試第28号（紅まどんな）

本県が育成した新品種で、ゼリーのような食感が特徴的です。年末贈答用に最適なかんきつで、特に管内で生産されたものは、消費者の方々からも高い評価を得ています。栽培面積は145haで、屋根かけ等の施設栽培で高品質化を進めています。



大好評の紅まどんな

#### ●カラ

春（4～5月）に旬を迎えるかんきつで、みかんに近い外観と濃厚な味わいが特徴です。松山市の島しょ部を中心に77haの栽培面積があり、日本一の「カラ」の産地となっています。

#### ●キウイフルーツ

落葉果樹の中心品目として175haで栽培されています。 Hayward が中心ですが、ゴールドキウイがJGAP認証やゼスプリ社との契約栽培により高価格で取引されています。



高品質なゴールドキウイ

### ●くり

県内の栽培発祥の地である伊予市中山町を中心に345ha で栽培され、全国トップクラスの銘柄「中山栗」産地が形成されています。

江戸時代には、将軍に献上して賞賛された歴史があります。

### ●びわ

伊予市唐川地区や松山市興居島地区等で露地栽培が行われています。栽培面積は32ha で、気象・土壌条件をいかした高品質の果実が生産されています。

### ●ぶどう

松山市伊台地区を中心に銘柄産地を築いています。中山間地特有の気象条件をいかして70 年以上の歴史を誇っており、栽培面積は25ha です。

※栽培面積は県農産園芸課調べ（平成28 年産果樹統計資料及び果樹栽培状況調査）

## ★ 野菜

温暖な気象条件を利用し、施設栽培では、いちご、なす、露地では、なす、そらまめ、レタス等が栽培されています。

また、久万高原町では、夏季冷涼な気象条件を利用し、雨よけトマトやピーマン等が栽培され、高原野菜の産地となっています。

### ●いちご

松山市、東温市、伊予市、松前町などで11ha 栽培されています。

主な品種は、「紅ほっぺ」、「あまおとめ」、「紅い雫」など、消費者ニーズに即した品種が導入され、地元はもとより京阪神へも出荷されています。

松山市や伊予市では、直販や観光農園もあります。

近年、高設栽培や天敵導入等により、省力化が進んでいます。



高設栽培いちご「紅い雫」

### ●なす

松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町などで34ha 栽培されています。

「筑陽」種は、施設と露地で、「庄屋大長」種は、露地で栽培され、それぞれ、「伊予なす」「松山長なす」の名称で親しまれています。

### ●そらまめ

松山市、伊予市、松前町などで22ha 栽培されています。

古くから管内の特産品となっています。

収穫時期は4月中旬から6月上旬で、主な品種は3粒莢割合の高い「陵西一寸」です。



そらまめL字栽培

### ●レタス

伊予市や松前町を中心に50ha 栽培されています。

収穫時期は10月から翌年の5月で、栽培時の気象条件にあわせて品種を変えるとともに、食感重視の適期収穫に努めています。冬季にはトンネル栽培が行われています。



レタスべたがけ栽培（右）

### ●トマト

久万高原町、旧中山町、旧広田村で夏秋雨よけトマトが40ha 栽培されています。主な品種は高糖度で食味の良い「桃太郎（セレクト、サニー、8、他）」です。

何れの産地とともに、農協共販部会全体でエコえひめ認証並びにエコファーマーの認定を受けており、安全・安心な環境に配慮した栽培に取り組んでいます。



久万高原町のトマト栽培

●ピーマン

久万高原町を中心に18ha 栽培されています。主な品種は肉厚のある「京波」です。農協共販部会全体でエコファーマーの認定を受け、環境に配慮した栽培に取り組んでいます。



久万高原ピーマン

※栽培面積は県農産園芸課調べ（平成28年産野菜類の生産販売状況に関する調査）

## ★ 米 麦

東温地区や伊予地区には、それぞれカントリーエレベーターが整備され、米麦を中心とした効率的な水田農業が展開されています。

水稲品種は、「コシヒカリ」、「あきたこまち」、「ヒノヒカリ」といったコシヒカリ系統の良食味品種が80%を占めています。また、久万高原町では、冷涼な気候と清らかな流水で栽培された良食味米を「久万高原清流米」という独自のブランド名で生産・販売しています。

一方、愛媛県が日本一の産地となっているはだか麦は、松前町や東温市などの道後平野を中心に栽培されています。主な品種は「マンネンボシ」や「ハルヒメボシ」です。

伊予市、松前町には県内の米・はだか麦の種子を生産する採種圃場もあります。



傾穂期に入った水稲



収穫期を迎えた東温市のはだか麦

## ★ 花 き

県内最大の市場への近さを生かし、松山市や東温市などの平野部では、小規模ながら古くから、きく、ばら、カーネーション、ゆりなどの多様な品目の切花が生産されてきました。

近年は、生活スタイルの多様化を反映し、切花品種の多様化や生産の周年化が進んでいます。

また、枝物や鉢物、苗物の生産も拡大してきました。

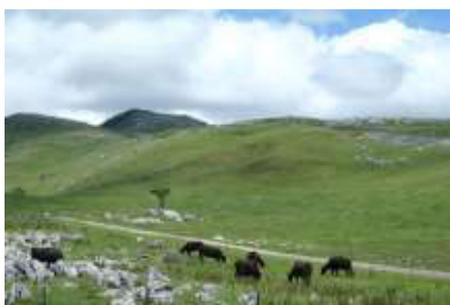
主な品目は、切花ではゆり、きく、デルフィニウム、マーガレット、枝物ではしきみ、ユーカリ、スモークツリー、鉢物・苗物ではシクラメン、パンジーとなっています。



デルフィニウム（さくらひめ）

## ★ 畜 産

管内の畜産は、松山市を中心とした都市化が進む一方、四国カルスト姫鶴牧場に代表される山間部での土地利用型畜産も見られます。近年、輸入飼料価格の高騰や畜産農家は高齢化の傾向にあります。養豚や養鶏は規模拡大による企業経営化も進んでいます。一方、酪農や肉用牛は自給飼料の生産や自家配合飼料、エコフィード（食品残さ飼料）の利用によるコスト低減にも取り組んでいます。



放牧の様子（姫鶴牧場）



大規模採卵鶏舎

## 担い手の概要

### ★農家数等

管内の販売農家数は約7,600戸で、5年前に比べ約20%減少しています。販売農家の基幹農業従事者の平均年齢も70歳近く、高齢化と担い手不足が進んでいます。

市 町 村	平成 22 年 販売農家数 (戸)	平成 27 年 販売農家数 (戸)	基幹的従事者 平均年齢 (歳)
松 山 市	4,436	3,342	68.4
東 温 市	1,242	1,039	70.8
久万高原町	796	641	70.5
伊 予 市	1,871	1,591	70.2
松 前 町	647	579	70.0
砥 部 町	594	456	69.1
計	9,586	7,648	—

資料：2010年、2015年世界農林業センサス

### ★認定農業者

担い手の中心となる認定農業者の育成や経営改善の支援に取り組んでおり、法人化や女性の経営参画を積極的に推進しています。

市 町 村	認定農業者数			
	(人)	うち法人 (件)	うち女性経営主 (人)	うち共同申請 (件)
松 山 市	869	37	24	53
伊 予 市	180	8	9	23
東 温 市	142	14	4	6
久万高原町	102	1	1	20
松 前 町	90	12	3	9
砥 部 町	95	4	2	14
計	1468	76	43	125

(H30年3月末)

★新規就農者

新規就農者は、毎年30人程度となっており、担い手不足の解消には至っていません。そこで、多様な形態の農業参入の推進を啓発するとともに、新規就農者には次代の地域農業を支える担い手として、早期の技術習得や経営の安定化を支援しています。

地域名	平成27年度				平成28年度				平成29年度			
	40歳未満	40歳以上	法人就農	計	40歳未満	40歳以上	法人就農	計	40歳未満	40歳以上	法人就農	計
松山	19	13	2	34	7	12	2	21	22	18	2	42
久万高原	3	6	0	9	1	3	0	4	1	3	0	4
伊予	8	3	0	11	5	2	0	7	6	3	0	9
計	30	22	2	54	13	17	2	32	29	24	2	55

松山：松山市＋東温市、久万高原：久万高原町、伊予：伊予市＋松前町＋砥部町

★担い手組織の支援

青年農業者、認定農業者、農家女性については、各地区でそれぞれグループ組織をつくり、研修等に取り組むとともに、地域の活性化等に貢献しています。

地域名	認定農業者 (人)	青年農業者 (人)	生活研究グループ	
			グループ数 (グループ)	会員数 (人)
松山	378	67	10	62
久万高原	56	24	20	65
伊予	241	47	13	48
計	675	138	43	175

松山：松山市＋東温市、久万高原：久万高原町、伊予：伊予市＋松前町＋砥部町

★集落営農

高齢化等により、個々の農家では営農が困難となった地域で、共同で農業機械を所有したり、農作業の受委託に取り組む集落営農組織の育成に努めています。

また、人と農地の問題を解決するため、「人・農地プラン」の策定を積極的に推進しています。

市 町 村	集 落 数 (集落)	集落営農組織数 (集落)	人・農地プラン 受益集落数 (集落)
松 山 市	2 3 7	1 8	1 5 0
東 温 市	7 5	8	7 5
久万高原町	1 7 2	3	1 6 1
伊 予 市	1 4 8	6	7 7
松 前 町	2 1	7	8
砥 部 町	4 5	4	4 5
計	6 9 8	4 6	5 1 6